

令和3年度

由布市総合計画・重点戦略プラン

進捗状況評価報告書

～令和2年度実施事業分～

総合計画審議会

(総合政策課)

総合計画(重点戦略プラン)の進行管理について

この報告書は、由布市第2次総合計画、とりわけ重点戦略プラン(13プラン)に係る行政の取り組み・進捗状況について、総合計画審議会(※外部有識者15名)による評価を実施し、今後の取組の方向性を定めるものとして活用する事を目的としています。

1. 進行管理の目的

第二次総合計画の策定方針にも掲げた1つである「進行管理、成果検証、課題分析、計画の見直しが着実に実施できる計画」に基づき、総合計画の実効性を担保するため、計画に掲載されている施策・事業の進行管理を適切に実施するための仕組みを構築し、計画の進捗状況を進行管理します。

<総合計画の特徴>

総合計画は、将来にわたって市民や行政など多様な主体の協働の基盤となる共通指針であり、第二次総合計画については次に掲げる特徴を持った計画として策定した。

- ①市民との協働による計画づくり
- ②わかりやすい計画
- ③実現性の高い計画
- ④進行管理を適切に実行できる計画づくり

2. 仕組みの構築

第二次由布市総合計画の策定時からの方針もあり、従来からの総合計画審議会の任務に加え、計画を進行管理する役割を追加し、由布市総合戦略も同時に行うことのできる進行管理機関として位置付けた。平成28年度をスタート年とし、本年の評価で5年度目

3. 進捗状況の検証

総合計画及び総合戦略の進捗状況管理を行う。

まず、行政内部においてPDCA サイクルマネジメントを実践するため、各担当部署で事務事業事後評価表を作成し内部評価を実施する。次に、総合計画審議会を開催し、作成した事務事業事後評価表をもとに担当部署も出席の上、審議会において計画の進捗状況について検証、分析を行う。

4. 検証の流れ

本年度の評価検証については、下記のとおり実施しました。

【実績】

日時	項目	内容
令和3年5月18日	総務課より 各課へ「事務事業事後評価表」作成依頼	締切日 6月4日(金) ※各課において作成・内部評価①を実施
5月19日	令和3年度第1回 総合計画審議会 開催	今年度の審議会開催内容等について
<p>本年度の評価について コロナの感染状況を考慮しつつも、委員が適正に評価できるように開催するため、昨年度の評価が低い1項目及び委員からの希望が高い3項目の計4項目については、担当課による説明とし、その他9項目は事務局による一括説明で行う。</p>		
7月5日	内部評価を実施	
7月12日	令和3年度第2回 総合計画審議会 開催	一括審議(9項目)
7月19日	令和3年度第3回 総合計画審議会 開催	集中審議(4項目)
7月末	評価表集約	
8月末	令和3年度第4回 総合計画審議会 開催	評価報告書(案)について

5. 検証手法

(1)検証の対象

第二次総合計画では、将来都市像を実現するため、6つの『まちづくりのテーマ』に14の『施策分野』、17の『施策目標』を掲げているが、進行管理を行うにあたっては、重点戦略プランを構成する13のプロジェクトについて検証を行うものとする。

(2)進捗状況の評価

市民の視点から評価する「市民意識調査」と、定量的・客観的で分かりやすい「客観指標評価」の二つの手法を用いて、客観、主観の両面から進捗状況の検証を行う。

また、「行政の取組状況」の結果と併せ、事前に行政内部において計画の進捗状況の検証、分析を行い、内部評価を実施し、外部評価委員会(総合計画審議会)において内部評価に至った経緯やその分析結果についてヒアリングを行い、今後の取組の方向性や審議会からの意

見を付した上で、各分野の進捗状況を最終評価する。

① 市民意識調査(令和元年度調査分)

総合計画の現状について、市民がどのように感じているかを尋ねる市民意識調査を実施し、その結果に基づいて5段階評価を行う。評価に市民の実感、満足度という尺度を加えた市民による評価としている。

① 市民意識調査結果 評点表			
「市民意識調査」(直近)結果での、該当項目に係る「重要度」「充足度」に対し平均値(四捨五入)			
重要度	平均点数	充足度	平均点数
重要	5点	充分	5点
やや重要	4点	やや充分	4点
あまり重要でない	3点	やや不充分	3点
重要でない	2点	不充分	2点
分からない	1点	わからない	1点

②客観指標評価

重点戦略プランの13のプロジェクトに掲げている「目標」の実現に向けて、その達成度合いを測るモノサシとなる客観的に数値化している指標を設定している。客観指標の達成度により5段階で評価する。

②客観指標結果 評点表			
「事務事業評価調書」に記載されている成果指標1つに対し			
達成率	点数		
90%以上	5点		
60%~90%未満	4点		
30%~60%未満	3点		
10%~30%未満	2点		
0%~10%未満	1点		

指標が2つ以上ある場合は、それぞれに点数を付し、平均点(四捨五入)で換算する。

平均点数	評価	評価内容
5点	A	目標が十分に達成されている
4点	B	目標がかなり達成されている
3点	C	目標が概ね達成されている
2点	D	目標があまり達成されていない
1点	E	目標が達成されていない

③行政の主な取組状況

「目標」の実現のために市が取り組む主要な事業(重点戦略プラン)について、当年度末の成果指標を各々検証し、各担当部局において設定した目標の達成状況から自己評価を行う。

③行政取組状況結果 評点表		
「事務事業評価調書」に記載されている2次評価結果により		
点数	評価	評価内容
5点	A	継続して事業実施
4点	B	見直して事業実施
3点	C	休止
2点	D	終了
1点	E	廃止

④総合評価

①市民意識調査、②客観指標評価、③行政の取組状況を踏まえて、「目標」にどれだけ近づいているか、かつ社会情勢等を総合的に勘案し、「目指す姿」への実現に向けて設定した目標への程度進捗しているかを下記A～Eの5段階評価で内部評価を行う。

④総合評価		
①～③の合計点		
合計点	総合評価	評価内容
17点以上	A	事業・取組が十分に達成されている
12～16点	B	事業・取組がかなり達成されている
8～12点	C	事業・取組が概ね達成されている
4～7点	D	事業・取組があまり達成されていない
1～3点	E	事業・取組が達成されていない

⑤総合計画審議会の意見

審議会において取組内容・進捗状況やその分析結果をヒアリングし、審議会としての意見を付す、あるいは理由を付した上で、最終的な進捗状況の評価を行う。

⑤審議会委員 評点表		
審議会委員の評点の平均点		
点数	評価	評価内容
5点	A	事業・取組が十分に達成されている
4点	B	事業・取組がかなり達成されている
3点	C	事業・取組が概ね達成されている
2点	D	事業・取組があまり達成されていない
1点	E	事業・取組が達成されていない

(参考1：評価表)

プラン1：地域防災力強化プロジェクト

点数欄のいずれかに○を付けてください。

区分	評価点数（評価基準は別途参照）				
妥当性	5	4	3	2	1
有効性	5	4	3	2	1
効率性	5	4	3	2	1
地域性	5	4	3	2	1
協働性	5	4	3	2	1
平均点	※事務局計算				

※平均点（四捨五入）を下記に当てはめる。

点数	評価	評価内容
5点	A	事業・取組が十分に達成されている
4点	B	事業・取組がかなり達成されている
3点	C	事業・取組が概ね達成されている
2点	D	事業・取組があまり達成されていない
1点	E	事業・取組が達成されていない

事務局計算

(参考2 評価基準)

項目		評価の視点				
妥当性	行政が関与すべきか	この事業を市が行わなければならないのか 税金を投入して行うべき事業か				
	住民ニーズは高いか	住民に求められている事業であるか 社会情勢が変化し、事業の必要性が低下していないか				
	目的・対象は妥当か	事業の対象・目的は適切か 事業の対象・目的に改善の余地はないか				
有効性	事業の効果があるか	事業の目的が効果的に達成されているか 廃止・休止した場合、住民生活に多大な影響があるか				
	成果向上の可能性	成果を向上させる余地(必要)があるか 成果向上が期待できない原因は何か				
	長期計画への貢献度	事務事業の目的が、市の政策体系に結びついているか 政策目標実現のため、確実に貢献しているか				
効率性	手段は最適か	目的達成のために、他に効率的な方法がないか 類似事業との統廃合の余地はないか				
	低コスト・効率化	成果を下げずに、事業費を削減できないか 事業費を削減した場合の影響の有無と問題解決はどうか				
	受益者負担は適切か	受益者に対して、適切な負担金を徴収しているか 住民間に不公平感がないか				
地域性	市内へ適切に対応しているか	住民に対して制度周知・説明対応が行われているか				
協働性	地域状況を把握しているか	地域実情に応じた対応は適切か				
	政策間連携が図られているか	行政内部での政策間連携が調整されているか				
	市民との協働が図られているか	市民との協働について適切か				
項目		5	4	3	2	1
妥当性	行政が関与すべきか	・積極的関与 ・非常に高い	・関与すべき ・やや高い	・一定程度関与すべき ・普通	・本来関与すべきでない ・稀である	・関与すべきでない ・求められたことはない ・不適切
	住民ニーズは高いか	・適切	・概ね適切	・概ね適切	・過剰/不足部分がある	
	目的・対象は妥当か					
有効性	事業の効果があるか	・非常に効果的 ・必要十分 ・大変効果的	・概ね効果的 ・概ね十分 ・効果あり	・概ね効果的 ・向上の余地あり ・貢献している	・効果的でない部分あり ・向上は難しい ・効果不明	・大半が有効でない ・向上は見込めない ・効果は見込めない
	成果向上の可能性					
	長期計画への貢献度					
効率性	手段は最適か	・最適な手段 ・最も効果的 ・適切	・ほぼ最適 ・概ね効果的 ・概ね適切	・検討する部分あり ・やや効果的 ・概ね適切	・検討する必要あり ・改善余地あり ・やや適切でない	・手法に問題がある ・他の方法がある ・不適切
	低コスト・効率化					
	受益者負担は適切か					
地域性	市内へ適切に対応しているか	・適切 ・十分	・概ね適切 ・概ね十分	・検討する部分あり ・概ね十分	・やや不十分 ・やや不十分	・不適切 ・不十分
	地域状況を把握しているか					
協働性	政策間連携が図られているか	・適切	・概ね適切	・検討する部分あり	・やや不十分	・不適切
	市民との協働が図られているか					

⑥最終判定

⑥最終評価		
④総合評価及び⑤審議会委員評価の合計		
合計点	総合評価	評価内容
21点以上	A	計画が十分に達成されている
16～20点	B	計画がかなり達成されている
11～15点	C	計画が概ね達成されている
6～10点	D	計画があまり達成されていない
1～5点	E	計画が達成されていない

由布市 総合計画 重点戦略プラン 評価結果 年次推移表 及び 評価結果まとめ

1 総合評価(市民意識+客観指標+内部評価)

プラン	プラン名	評価年度									
		H29		H30		R1(H31)		R2(R1)		R3(R2)	
		点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定
1	地域防災力強化プロジェクト	17	A	17	A	17	A	17	A	17	A
2	みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト	14	B	14	B	15	B	15	B	14	B
3	“市民が主体！！”コミュニティ活性化プロジェクト	15	B	15	B	14	B	14	B	14	B
4	地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト	15	B	16	B	17	A	17	A	14	B
5	子どもたちを包み込む支えあい・助けあいプロジェクト	17	A	16	B	18	A	18	A	18	A
6	『由布の学び』創造プロジェクト	16	B	16	B	16	B	17	B	16	B
7	食からはじめる健康づくり。食と農の再発見プロジェクト	14	B	15	B	16	B	16	B	13	B
8	次世代につなげよう、持続可能な仕事づくり	16	B	14	B	15	B	15	B	15	B
9	滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト	14	B	15	B	17	A	17	A	15	B
10	民官学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト	15	B	15	B	16	B	17	A	16	B
11	由布ならではの移住・定住プロジェクト	15	B	15	B	16	B	16	B	15	B
12	地域プロモーション推進プロジェクト	17	A	16	B	15	B	15	B	13	B
13	ゆふツーリズム推進プロジェクト	10	C	14	B	14	B	16	B	14	B

合計点	判定	評価内容
17点以上	A	事業・取組が十分に達成されている
12～16点	B	事業・取組がかなり達成されている
8～12点	C	事業・取組が概ね達成されている
4～7点	D	事業・取組があまり達成されていない
1～3点	E	事業・取組が達成されていない

2 審議会評価

プラン	プラン名	評価年度									
		H29		H30		R1(H31)		R2(R1)		R3(R2)	
		点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定
1	地域防災力強化プロジェクト	3	C	3	C	4	B	4	B	4	B
2	みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト	3	C	3	C	3	C	3	C	3	C
3	“市民が主体！！”コミュニティ活性化プロジェクト	3	C	3	C	3	C	3	C	3	C
4	地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト	4	B	4	B	4	B	4	B	4	B
5	子どもたちを包み込む支えあい・助けあいプロジェクト	4	B	4	B	4	B	4	B	4	B
6	『由布の学び』創造プロジェクト	4	B	4	B	3	C	4	B	4	B
7	食からはじめる健康づくり。食と農の再発見プロジェクト	3	C	3	C	3	C	4	C	3	C
8	次世代につなげよう、持続可能な仕事づくり	3	C	3	C	3	C	3	C	3	C
9	滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト	3	C	3	C	3	C	3	C	3	C
10	民官学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト	3	C	3	C	4	B	4	B	3	C
11	由布ならではの移住・定住プロジェクト	4	B	3	C	4	B	4	B	4	B
12	地域プロモーション推進プロジェクト	3	C	3	C	3	C	3	C	3	C
13	ゆふツーリズム推進プロジェクト	2	D	3	C	3	C	3	C	3	C

点数	判定	評価内容
5点	A	事業・取組が十分に達成されている
4点	B	事業・取組がかなり達成されている
3点	C	事業・取組が概ね達成されている
2点	D	事業・取組があまり達成されていない
1点	E	事業・取組が達成されていない

3 最終評価

プラン	プラン名	評価年度									
		H29		H30		R1(H31)		R2(R1)		R3(R2)	
		点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定
1	地域防災力強化プロジェクト	20	B	20	B	21	A	21	A	21	A
2	みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト	17	B	17	B	18	B	18	B	17	B
3	“市民が主体！！”コミュニティ活性化プロジェクト	18	B	18	B	17	B	17	B	17	B
4	地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト	19	B	20	B	21	A	21	A	18	B
5	子どもたちを包み込む支えあい・助けあいプロジェクト	21	A	20	B	22	A	22	A	22	A
6	『由布の学び』創造プロジェクト	20	B	20	B	19	B	20	B	20	B
7	食からはじめる健康づくり。食と農の再発見プロジェクト	17	B	18	B	19	B	20	B	16	B
8	次世代につなげよう、持続可能な仕事づくり	19	B	17	B	18	B	18	B	18	B
9	滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト	17	B	18	B	20	B	20	B	18	B
10	民官学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト	18	B	18	B	20	B	21	A	19	B
11	由布ならではの移住・定住プロジェクト	19	B	18	B	20	B	20	B	19	B
12	地域プロモーション推進プロジェクト	20	B	19	B	18	B	18	B	16	B
13	ゆふツーリズム推進プロジェクト	12	C	17	B	17	B	19	B	17	B

1 総合評価 + 2 審議会委員評価の合計

合計点	判定	評価内容
21点以上	A	計画が十分に達成されている
16～20点	B	計画がかなり達成されている
11～15点	C	計画が概ね達成されている
6～10点	D	計画があまり達成されていない
1～5点	E	計画が達成されていない

まとめ

～令和2年度実施事業に係る総合計画(重点戦略プラン)の評価について(まとめ)～

今回で、5回目となる評価を実施しました。各プランの評価については別紙のとおりです。総合計画の実施全体に対して以下の意見が出されました。今後の改善をお願いします。

1) 情報発信の不足

評価開始時点から継続して、指摘している事項です。情報発信は、現在のコロナ禍の状況においては更に重要となっています。今後は各種制度の周知だけではなく、取り組み状況等についても積極的な周知を図っていただきたいと思います。

2) 目標・計画の適切な設定と着実な実施

重点戦略プランに沿って評価していますが、計画に沿った取り組みとなっていない事業もありました。計画時点から状況が変化していることが要因となっている場合等もあるかと思えます。必要に応じて目標値・計画の修正を行って下さい。合わせて事業の実施についても、効果的に行うように、常に手法や体制の見直しをお願いします。

3) 評価に際して

指標の達成状況の理由と、次年度に向けた改善策の明示をお願いします。

※ 来年度(令和4年度)の計画・内容が出来た時点で説明をお願いします。また評価基準のうち「効率性」が低い傾向が見られます、プロジェクト毎に効率性を高める改善をお願いします。

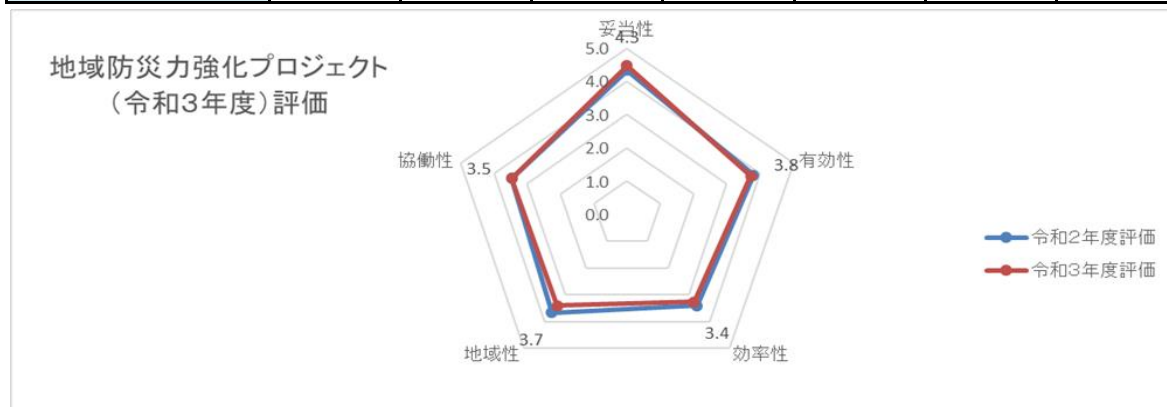
重点戦略プラン 個別評価調書

～令和2年度事業実施分～

地域防災力強化プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.19	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	地域防災推進事業		説明担当課 防災安全課

計画	前期計画				後期計画			
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
審議会評点合計	32点	47点	54点	56点	55点			
審議会評点 (平均点)	3点 (3.2)	3点 (3.1)	4点 (3.6)	4点 (3.7)	4点 (3.7)			



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	5点	R1年版「市民意識調査」 問8「災害等の対応 防災対応」	R1:速報値 平均値 4.66) (H29:速報値 平均値 4.47)
①市民意識 (充足)	3点	R1年版「市民意識調査」 問8「災害等の対応 防災対応」	R1:速報値 平均値 2.96 (H29:速報値 平均値 2.92)
②客観指標結果	4点 (3.6)	(4点) 自主防災組織数 H30年度 54組織	目標 R7年度時点で 65組織 実績 R2年度末時点 56組織
		(4点) 防災士配置自治区数 H30年度 120地区	目標 R7年度時点で 120地区 実績 R2年度末時点 99地区
		(3点) 防災訓練・研修回数 H30年度 44回	目標 R7年度は 65回 実績 R2年度 24回
		(3点) 防災教育回数 H30年度 10回	目標 R7年度は 12回 実績 R2年度 7回
		(3点) 消防団訓練・研修回数 H30年度 8回	目標 R7年度は 12回 実績 R2年度 5回
		(5点) 消防団員充足率 H30年度 95.5%	目標 R7年度時点で 95.5% 実績 R2年度 93.2%
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	17点		
⑤審議会 評点	4点 (3.7)	事業・取組がかなり達成されて いる	
④+⑤合計点	21点		
⑥最終評価	A	計画が十分に達成されている	

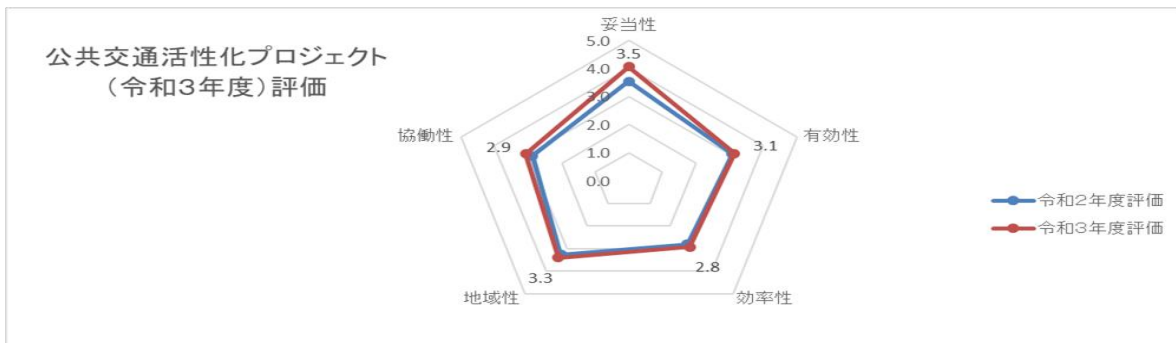
審議日	7月19日	プロジェクト名	地域防災力強化プロジェクト
コメント			
<p>豪雨があったからこそ、危機感が高まっている今こそ防災士育成を一気に進めてほしい。 防災士会は出来たのか？ 消防団と防災士の交流はどうなっているのか？</p>			
<p>地震や豪雨・台風等の自然災害が、被害が広範囲で起こることから早めの避難行動以外に生命を守ることは不可能である。 そのためには、「警戒レベル2」で避難行動をすることが認識しておくことが重要である したがって危険区域には、「警戒レベル2」での避難開始に対応した指示・指令が必要である。(由布市では実施している事項もある)</p>			
<p>防災士の今後の育成と地域毎の組織強化を取組み 気象庁の防災情報を避難へ意識の徹底 大雨・豪雨に対する市独自の強靱化計画 雨期のパトロール強化</p>			
<p>避難所や災害ボランティアの充実・整備についても目標数値とすて示すべきではないか</p>			
<p>毎年の様に災害が発生している中、地域防災士の役割は重大です。防災士の名称を公表することは出来ますか</p>			
<p>防災士の役割・権限・立ち回りに期待するもの、消防団との役割分担などの項目について、不明確な感じがするわかりづらい 学校防災コーディネーターは先生が運営するそうだが、活発な活動をしているとは言い難い、各地にいる防災士と連携をとり、活動を活性化できる方法はないか 「共助」に対する取組みがうすい、地域にお任せモードになってはいないか。「共助」に期待する動機や目的をもう少し具体的に示した方がよいのではないか</p>			
<p>コロナのため評価困難 防災情報告知システム整備事業に期待します</p>			
<p>地域防災にかかる防災士の役割がわかりづらいと思います。(避難段階での役割 避難所の運営面での役割 被災後の復旧段階での役割)等々 いずれにしても、自治区や自主防災組織の中での位置づけを明らかにしていくことが大切。船頭が多くならないよう、責任の分担(行政との係わり)等についても行政と地域が十分話し合っていく必要がある。危機の時には指揮命令系統の一本化が不可欠</p>			
<p>消防団員の高齢化と消防士の若年化への対応を。各団員の報酬に関して個人配布以外の方法は無いのか？</p>			
<p>大災害が毎年日常の様に発生しており、市民の関心も高いと思われます。</p>			
<p>災害が頻発している近年において、地域防災力の強化は重要な取り組みです。防災士の養成のみならず、住民の防災意識を高めるための働きかけが必要と思います。</p>			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

みんなで守り育てる 公共交通活性化プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.12	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地域公共交通事業」等		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画			
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度		H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	25点	38点	49点	47点	50点			
審議会評点 (平均点)	3点 (2.5)	3点 (2.5)	3点 (3.3)	3点 (3.1)	3点 (3.3)			



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	5点	R1年版「市民意識調査」 問10『公共交通網の充実』	R1:速報値 平均値 4.51 (H29:速報値 平均値 4.08)
①市民意識 (充足)	2点	R1年版「市民意識調査」 問10『公共交通網の充実』	R1:速報値 平均値 2.38 (H29:速報値 平均値 2.81)
②客観指標結果	3点 (2.75)	(1点) コミバスの運行に合わせたイベントの 開催を行う等の事業実施 H30年度 1回	目標 R7年度は 10回 実績 R2年度 0回
		(1点) コミュニティバス運行回数券の交付 H30年度 0件	目標 R7年度は 100件 実績 R2年度 8件
		(4点) コミバス年間利用者数 H30年度 39,356人	目標 R7年度は 45,000人 実績 R2年度 32,398人
		(5点) 免許返納者へのタクシー補助券の交 付 H30年度 112件	目標 R7年度は 120件 実績 R2年度 115件
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施	
④合計点 (総合評価)	14点		
⑤審議会 評点	3点 (3.3)	事業・取組が概ね達成されてい る	
④+⑤合計点	17点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

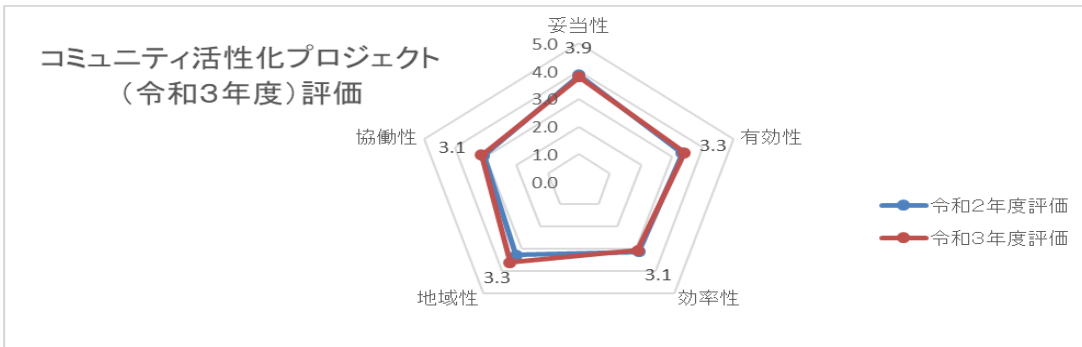
審議日	7月12日	プロジェクト名	みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト
コメント			
<p>目標を見直したが、あと5年間のうちに達成できるのか？ コロナ禍で評価が難しい</p>			
<p>努力されていると思うが、実態調査をしないと有効性？効率性が見えない 補助金が交付されるのではなく、交通手段のあり方を先進地、市民ニーズ等調査して検討できないか？ 人が進んで週1でも週2でも必要としている人がいれば、かなえる努力はあるかもしれない、公共交通路線との 整合性は難しいが何か手段はないか、また必要性の少ない路線については減らすか廃止も視野に 調査に人手がいる時は、地域住民の手を借りるのも1つの方法では？</p>			
<p>決算額のうち、スクールバス分の普通交付税、運賃収入、その他の特定財源等の内訳を示した方が良いのではないか</p>			
<p>高齢者の運転免許自主返納促進のためTAXIチケットを交付する取り組みは評価できるが、由布市において70才以上の免許保持者の指数を明記して頂くとこの成果が分かりやすくなる。小さな車で巡回するとか、買い物支援をする方法は模索できないか。</p>			
<p>コロナのため評価困難 路線のニーズについて再検証の必要性を感じる</p>			
<p>車両運送法の法리가問題あるのは認識しているが、効率性の観点から先進地での取り組み状況の調査結果を踏まえ、新たな取組みが必要 福祉・教育・観光などの多面的なエリアモビリティについて検討していく必要がある SDGsの観点からも検討が必要</p>			
<p>Maas オンデマンドとの連携を進めて頂きたい。コストカットと路線拡大を同時に行う為に新しいモビリティをどのように活用するかを計画へ反映してください。</p>			
<p>地域の足の確保という観点で、非常に重要なプロジェクトと感じる。病院など医療機関との連携により、利用率の向上が期待される。</p>			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

“市民が主体!!”
コミュニティ活性化プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.19	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	地域コミュニティ形成促進事業 等		説明担当課 総合政策課

計画	前期計画				後期計画			
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度		H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	※30点	44点	51点	50点	51点			
審議会評点 (平均点)	3点 (3.0)	3点 (2.9)	3点 (3.4)	3点 (3.3)	3点 (3.4)			



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	問8『地域コミュニティ組織活動』	R1:速報値 平均値 4.04 (H29:速報値 平均値 3.78)
①市民意識 (充足)	3点	問8『地域コミュニティ組織活動』	R1:速報値 平均値 3.33 H29:速報値 平均値 2.94
②客観指標結果	3点	(2点) 地域協議会設立 H30年度 1地区	目標 R7年度時点で 4地区 実績 R2年度末時点 1地区
		(4点) 連携による事業実施数 H30年度 1件	目標 R7年度時点で 4件 実績 R2年度末時点 3件
		(3点) 連携による地域ビジョンの作成 H30年度 1地区	目標 R7年度時点で 4地区 実績 R2年度末時点 2地区
		地域振興計画の策定	目標 毎年 3地区 実績 R2年度 0地区
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施	
④合計点 (総合評価)	14点		
⑤審議会 評点	3点 (3.4)	事業・取組が概ね達成されている	
④+⑤合計点	17点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

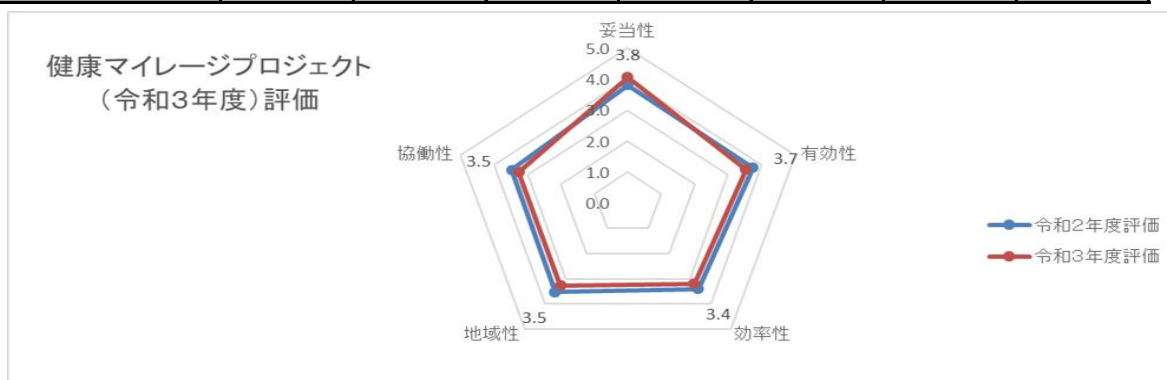
審議日	7月19日	プロジェクト名	“市民が主体！！”コミュニティ活性化プロジェクト
コメント			
<p>多少減額はするとしても、地域づくりのベースとなる組織として継続的に支援すべき(せめて事務局の人件費)。その市役所の姿勢が地域の主体性を引き出す面もあるのでは？ 庁内はもちろん、社協や農協と連携も有効 市がコーディネート 新しい活動だけでなく、スリム化は進んでいる？</p>			
<p>地域の過疎化、人口減少、地域を維持してくれる壮年世代が減少する中で、どう地域を維持していくか。冠婚葬祭、まつり等地域のコミュニティが薄れている。 市の関与は必須だが、どう切り込むのか、切り込んでいくのかが問われる。気運を盛り上げることが大切 様々な生き方のニーズをどう捉えるか？地域リーダーの育成は重要</p>			
この事業は行政内部を横断的に連携して取り組む方が効率的ではないか			
<p>補助金の助成が本年度で終わり(※大津留まちづくり協議会)となるが、自主財源確保の見通しはたっているか？来期以降の自主財源額が減少となった場合、当活動が縮退しないか心配 地域リーダーの育成が急務・リーダー育成講座などを企画して長期的な視野に立って育成してはどうか</p>			
コロナのため評価困難 大津留地域協議会の取り組みは評価できる。他地区への広がり期待する			
<p>地域コミュニティの活性化には、行政の関与が不可欠な状況にあると思う。資金面も当然必要となるが、なによりも地域への人的関与が重要・振興局の頑張り所と思う。特に「何かしなければ」という強迫感念を持って地域と接するのではなく、日頃から地域に顔を出してコミュニケーションを取ることから進めるべきでは リーダーの育成は不可欠であるが、押し付けではなく相談に応じたり、情報提供を続けることが重要</p>			
アフターコロナに向けて地域をけん引できるリーダーの育成を更に進めるべき。またその為の新しい取組みも行うべき			
まちづくりに欠かせないリーダーの育成は非常に有益と思います。			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

地域へ飛び出せ！ 健康マイレージプロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.12	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「健康立市推進事業」等		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画			
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度		H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	39点	53点	53点	54点	52点			
審議会評点 (平均点)	4点 (3.9)	4点 (3.5)	4点 (3.5)	4点 (3.6)	4点 (3.5)			



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R1年版「市民意識調査」 問11『地域での健康づくり』	R1:速報値 平均値 4.38 (H29 速報値 平均値 4.21)
①市民意識 (充足)	4点	R1年版「市民意識調査」 問11『地域での健康づくり』	R1:速報値 平均値 3.60 (H29:速報値 平均値 3.35)
②客観指標結果	2点	(2点) 健康マイレージ対象事業数 H30年度 35事業	目標 R7年度時点で 50事業 実績 R2年度時点 13事業
		(3点) 健康マイレージ応募者数 H30年度 972名	目標 R7年度時点で 1,500名 実績 R2年度時点 945名
		(1点) 健康づくりリーダー派遣者数 H30年度 延366名	目標 R7年度時点で 700名 実績 R2年度時点で 48名
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施	
④合計点 (総合評価)	14点		
⑤審議会 評点	4点 (3.5)	事業・取組がかなり達成されて いる	
④+⑤合計点	18点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

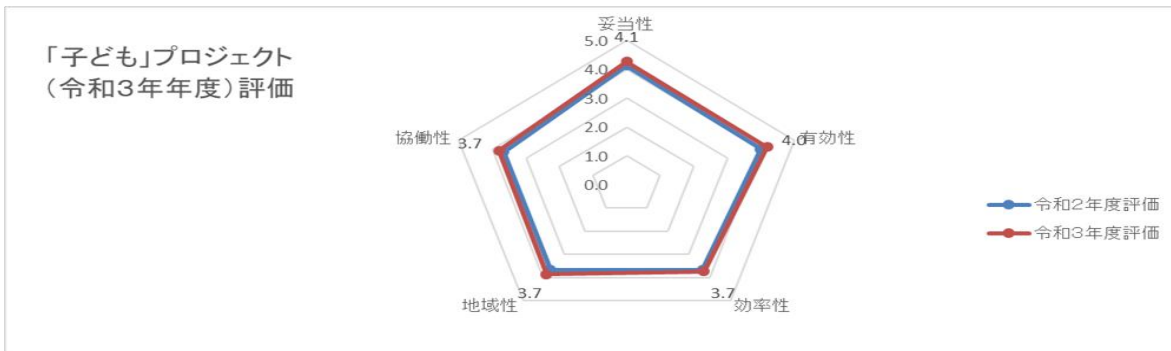
審議日	7月12日	プロジェクト名	地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト
コメント			
コロナで評価困難・サロンとの連携は良いと思います。			
伸び悩んでいる感がある。個人各々の健康への取組み、重症化しない取組み等もあり、多くの人に健康への認識を深めてもらいたい、自治公民館の活用、事業所への普及も検討			
健康立市「由布市」としてもPRが足りない、特に市外に向けたアピール・魅力ある都市である事を広告する 市民へ「健康マイレージ手帳」を配布して啓発する			
コロナのため評価困難 40~50代への情報発信不足 オンラインでの健康づくりについても考えるべきでは			
健康立市に向けて担当部局は頑張っていると思います。現在は65才以上の高齢者と言われる世代でも、現役で頑張っている方は多く、スマートフォンなどの所有者も増えています。スマホには一日の歩数やカロリー計算などが含まれているソフトも多く、若い世代も含め健康に関する意識を高める取組みや仕掛けが必要ではないかと考えます。			
より多くの市民に参加頂けるように、アフターコロナに向け活発化して頂きたい。プロスタッフによるダイエット講座等を行い、メタボ対策を行ってはどうか？			
健康立市を目玉とする移住定住促進事業として非常にユニークと感じる。			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

子どもたちを包み込む 支えあい・助けあいプロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.12	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地域子育て支援づくり事業」等		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画			
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度		H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	36点	55点	57点	57点	60点			
審議会評点 (平均点)	4点 (3.6)	4点 (3.6)	4点 (3.8)	4点 (3.8)	4点 (4.0)			



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	5点	R1年版「市民意識調査」 問13『子育て支援活動』	R1:速報値 平均値 4.51 (H29:速報値 平均値 4.22)
①市民意識 (充足)	3点	R1年版「市民意識調査」 問13『子育て支援活動』	R1:速報値 平均値 3.22 (H29:速報値 平均値 2.58)
②客観指標結果	5点 (4.75)	(5点) 子どもの居場所づくり(児童館・放課後 児童クラブ等の拠点) H30年度 20施設	目標 R7年度時点で 22施設 実績 R2年度末時点 23施設
		(4点) 保育所等待機児童の数(潜在的待機 を含む) H30年度 104人	目標 R7年度時点で 0人 実績 R2年度末時点 19人
		(5点) 3歳未満児の保育利用率 H30年度 44.6%	目標 R7年度時点で 48.6% 実績 R2年度末時点 47.4%
		(5点) 訪問・相談人数 H30年度 130件	目標 R7年度時点で 160件 実績 R2年度末時点 276件
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	18点		
⑤審議会 評点	4点 (4.0)	事業・取組がかなり達成されて いる	
④+⑤合計点	22点		
⑥最終評価	A	計画が十分に達成されている	

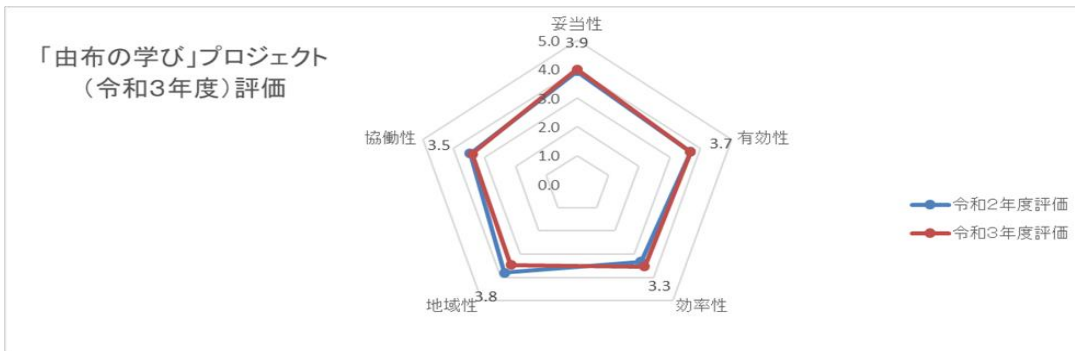
審議日	7月12日	プロジェクト名	子どもたちを包み込む支えあい・助けあいプロジェクト
コメント			
<p>児童館・児童クラブに来られない子供のケア・サポートは？ 子ども食堂は？ サポーターは組織化されている？</p>			
<p>子どもを地域で守り育てる。女子の社会参画で行政が子育てに係る事業は幅広いものとなっている。環境を守ると同時に、100%満足を与えるのではなく、生きる力、たくましさ を学校・地域・家庭で育ててほしい。子育てに関する施策の効果は他市より整っていると思う。</p>			
<p>施策としては成果が上がっていると思う</p>			
<p>3ブロック(挾間・庄内・湯布院)の施設利用率などの情報を記載して頂くと良いと思います。バランスよく事業の展開がなされているかの視点で見たいので</p>			
<p>コロナのため評価困難 特に人口の多い挾間地域での病児保育施設の必要性を感じる</p>			
<p>幼児を対象として支援プロジェクトについてはそれなりに充実していると思いますが、児童に対する課題については、学校教育課や公民館活動(社会教育課)、交通安全対策など多様な主体に係わるプロジェクトであり、総合政策課を中心に各部課が課題を共有し、各施策の関係性を十分理解し、改善していく必要があると思います。</p>			
<p>湯布院での児童クラブについて、公民館跡地での実用を検討して頂きたい。</p>			
<p>新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、大きな影響を受けたと思われる子育てに対する支援であり、非常に有効と思われる</p>			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

『由布の学び』 創造プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.12	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地域と協働する学校づくり推進事業」 等		事務局

計画	前期計画				後期計画		
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	35点	55点	52点	55点	54点		
審議会評点 (平均点)	4点 (3.5)	4点 (3.6)	3点 (3.4)	4点 (3.6)	4点 (3.6)		



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考	
①市民意識 (重要)	4点	R1年版「市民意識調査」 問12『生涯における学び』	R1:速報値 平均値 4.08 (H29:速報値 平均値 3.82)	
①市民意識 (充足)	3点	R1年版「市民意識調査」 問12『生涯における学び』	R1:速報値 平均値 3.12 (H29:速報値 平均値 2.95)	
②客観指標結果	4点 (3.6)	(5点)	児童・生徒の「地域活動への意識調査」結果 H30年度 小:15.3% 中:15.5%	目標 R7年度時点で 小30% 中30% 実績 R2年度末 小50% 中30%
		(2点)	不登校児童・生徒の出現率 H30年度 小0.6% 中2.8%	目標 R7年度時点で 小0.3% 中1.5% 実績 R2年度末 小1.0% 中5.5%
		(3点)	「由布の学び検定」の実施 H30年度 25人	目標 R7年度時点で 80人 実績 R1年度中 28人
		(4点)	1ヶ月に3冊以上本を読む児童・生徒の割合 H30年度 小5 81.7% 中2 50.2%	目標 R7年度時点で 小83.4% 中55% 実績 R2年度末 小85.8% 中 47.1%
		(4点)	家庭教育支援講座 受講数 H30年度 88人	目標 R7年度時点で 135人 実績 R2年度 83人
		(4点)	地域人材派遣数 H30年度 3,383人	目標 R7年度時点で 3,700人 実績 R2年度 2,493人
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施		
④合計点 (総合評価)	16点			
⑤審議会 評点	4点 (3.6)	事業・取組がかなり達成されている		
④+⑤合計点	20点			
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている		

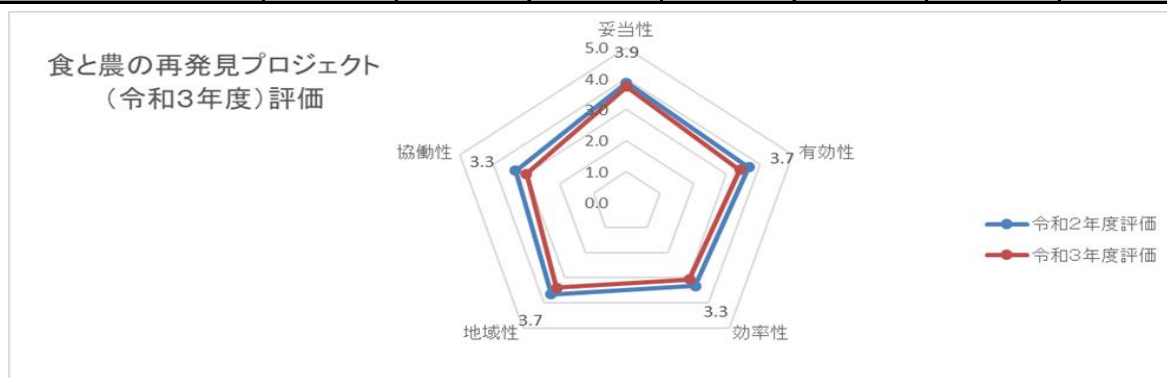
審議日	7月12日	プロジェクト名	『由布の学び』創造プロジェクト
コメント			
<p>学校教育は充実しているが、社会教育は弱い？ 地域リーダー育成 まち協との連携に期待 公民館は各種教室やサークルの立ち上げ支援している？ 大人にもオンライン・リモート教室をしては？</p>			
<p>狭間地域での中高一貫教育に関する取組みについて、新定住者の理解がうすいと思う。高校の存在、歴史など知らないのでは？ 子ども達の生きるための食育・健康のための食育学んでほしい 地域人材支援は片寄らず、多くの人を派遣してもらいたい。体験・経験談を聞くことは将来のために役立つ</p>			
<p>ギガスクールについては、TOOL配布・環境整備に止まらず、行政の立場からその実態評価と課題抽出を実施して頂きたい 実態として担当する先生方の負担は大きく、その維持管理(端末のUPDATE)などに多くの時間を取られているのでは？と懸念している。 また既に授業で活用しているところと、そうでないところとで格差が出ていないか心配。 あらゆる世代に対して学びの場を提供する企画が必要。特に大人向けの企画が少ないようだ R2実績から中学生の不登校数値が悪化している。その原因が何かを討議されているか否か不明。R3活動にてその対策が講じられている事に期待します。</p>			
<p>コロナのため評価困難 1次産業と「学び」をつなぐ可能性もあるのでは</p>			
<p>各地域の名人・達人を学びの場にうまく活用する方法があるとより充実したものとなると思います</p>			
<p>活動のフィードバックをより多くの市民・市内企業へ広めて頂きたい。大人向けプログラム(社会教育)に関する情報が足りていないのでは？</p>			
<p>子供のみならず、大人への人材育成(社会教育)の充実が望ましいと思われる。</p>			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

食からはじめる健康づくり。 食と農の再発見プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.12	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地産地消推進事業」等		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画			
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度		H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	34点	40点	51点	54点	50点			
審議会評点 (平均点)	3点 (3.4)	3点 (2.6)	3点 (3.4)	4点 (3.6)	3点 (3.3)			



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R1年版「市民意識調査」 問15『農商観の連携』	R1:速報値 平均値 4.14 (H29:速報値 平均値 3.60)
①市民意識 (充足)	3点	R1年版「市民意識調査」 問15『農商観の連携』	R1:速報値 平均値 3.11 (H29:速報値 平均値 2.36)
②客観指標結果	2点	(1点) 食農教育開催数 H30年度 6回	目標 R7年度は 7回 実績 R2年度 0回
		(4点) 市内農産物使用率 H30年度 21%	目標 R7年度時点で 30% 実績 R2年度時点 22.2%
		(1点) 食文化のPR活動 H30年度 12回	目標 R7年度は 22回 実績 R2年度 0回
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施	
④合計点 (総合評価)	13点		
⑤審議会 評点	3点 (3.3)	事業・取組が概ね達成されてい る	
④+⑤合計点	16点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

審議日	7月12日	プロジェクト名	食からはじめる健康づくり。食と農の再発見プロジェクト
-----	-------	---------	----------------------------

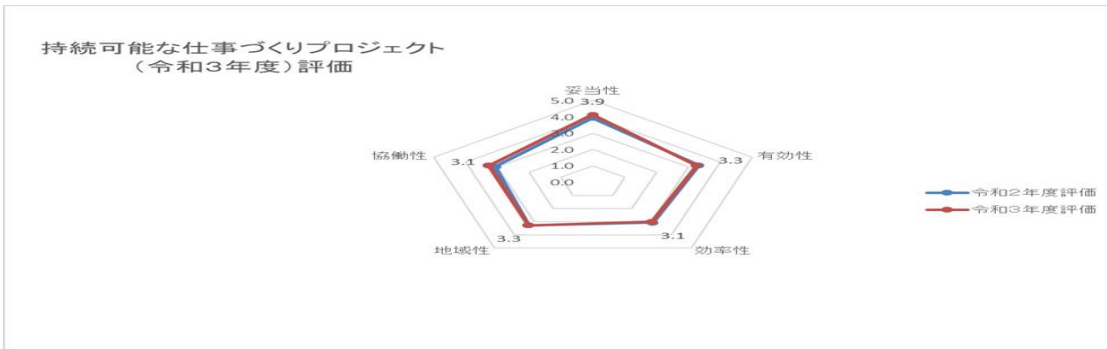
コメント	
<p>コロナの影響大 直売所をもっと大事にしては？現状の事業だと30%までもっていけるか？追加・見直しが必要では？</p>	
<p>力をいれる戦略と感じている。 多方面から検討する余地がおおいにある。農泊の利用・活用、地産地消と健康食への取り組み強化 生産者の意欲向上のための販売促進補助 教育の中に土へ親しむ時間を取り入れる食育の工夫 不登校・引きこもりの予防にもつながると思っている。</p>	
<p>給食センターに対応する為の作物を検討する事が大切なのではないか。例えば春秋のジャガイモ・タマネギ等 保存が出来る物など</p>	
<p>年間を通じて安定的に生産できる特産物の開発を行う。特産物をふるさと納税の返礼品に加えPRする。農作物を貯蔵する倉庫の確保(レンタル・建設)或いは農家(倉庫保有)の使用していない資産を借用するなど</p>	
<p>コロナのため評価困難 食農教育については動画などで対応する手段もあるのでは</p>	
<p>少しテーマが広すぎるのか、施策や事業との関連がぼやけているように感じます。</p>	
<p>アフターコロナにむけて、食のプロモーションも行うべき、観光と足並みを合わせた取り組みが大切ではないか</p>	
<p>年間を通じた計画性のある取り組みが必要と思われる。</p>	

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

次世代につなげよう、 持続可能な仕事づくりプロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.19	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	就農支援事業		説明担当課
	商工振興活性化事業		

計画	前期計画				後期計画		
事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	34点	44点	51点	50点	51点		
審議会評点 (平均点)	3点 (3.4)	3点 (2.9)	3点 (3.4)	3点 (3.3)	3点 (3.4)		



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R1年版「市民意識調査」 問14『農林畜産業の持続活動』	R1:速報値 平均値 4.30 (H29:速報値 平均値 3.73)
①市民意識 (充足)	3点	R1年版「市民意識調査」 問14『農林畜産業の持続活動』	R1:速報値 平均値 2.86 (H29:速報値 平均値 2.24)
②客観指標結果	3点 (2.75)	(1点) 異業種交流会の開催数 H30年度 1回	目標 年/5回 実績 R2年度 0回
		(3点) 市内新規就労・就農者数 H30年度 26人(累計 H28~H30)	目標 R7年度までの累計 60人 実績 R1~R2までの累計 22人
		(4点) 創業件数 H30年度 5件	目標 R7年度 8件 実績 R2年度 5件
		(3点) 研修先となる先進農家数 H30年度 延べ6軒	目標 R7年度時点で 延べ10軒 実績 R2年度 延べ 5軒
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	15点		
⑤審議会 評点	3点 (3.4)	事業・取組が概ね達成されてい る	
④+⑤合計点	18点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

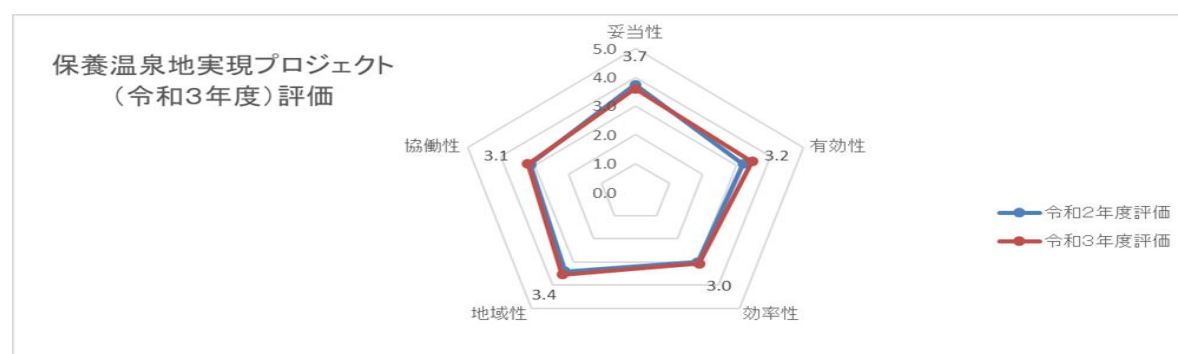
審議日	7月19日	プロジェクト名	次世代につなげよう、持続可能な仕事づくり
コメント			
<p>コロナによる地方移住の追い風をキャッチできている？ リモート・オンラインのサポートは？交流会はオンラインでも出来る？ 高校や農大との連携は進んでいる？ 「地域づくり組合」制度を利用しては？</p>			
<p>地域での高齢化も歯止めがかからない現状のなかで、生産年齢人口を増加するための仕事場づくりは極めてハードルが高い課題である。 就農者の拡大や支援事業だけでは生産年齢者の増加対策には繋がらないと考える。 県内外や国を含めた企業誘致、また地場産業の強化や農産物の加工工場の設立等を働きかける取組みが必要である。</p>			
<p>市内在住者向け支援と、移住定住者向け支援双方に必要な支援、農地、田畑、販売販路の確保の一貫性、商工観光業との結びつき、市内事業との交流を図り市の経済的動向を知ることは大切です。</p>			
<p>事業がマンネリ化しているように思える</p>			
<p>新規就農者に対しての対応や指導を。就農者の考えが甘いかもしれませんが、せっかく農業をしようとしている人が、途中で挫折しないようアドバイスや指導をお願いします。</p>			
<p>新規就農者に対して、農業ノウハウの伝授 農業経営のノウハウや収益性の確保など、農業事業が安定するまでは財政的にもフォローする事はできないか ワークेशन事業の促進 対応できる施設を増やし、滞在型保養地としてPRする できれば企業誘致も</p>			
<p>コロナのため評価困難 もっと情報を発信するため 由布市と都市部をつなぐ人が必要では</p>			
<p>商工観光課の業務が多岐に渡るため、少し商工部門のデータ蓄積や企業誘致などの政策が手薄なのかと感じます。 市内には先端分野の企業もあり、DX革命への取り組み、農業分野の連携など、戦略的な取り組みを進める必要があると思います。</p>			
<p>地域経済が深刻なダメージを負っている今だからこそ異業種交流や商工業活性化への取り組みを。外部有識者を招いてプロジェクトを進められないか？</p>			
<p>コロナ禍でもオンラインでの相談は実績をあげているので、工夫して取り組んでほしい。就労・就農後の継続支援も大切だと思います。</p>			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

滞在型・循環型保養温泉地 実現プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.12	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「観光振興事業」等		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画			
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度		H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	26点	47点	46点	49点	51点			
審議会評点 (平均点)	3点 (2.6)	3点 (3.1)	3点 (3.1)	3点 (3.3)	3点 (3.4)			



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	問17『地域資源を活かした交流』	R1:速報値 平均値 3.72 (H29:速報値 平均値 3.27)
①市民意識 (充足)	3点	問17『地域資源を活かした交流』	R1:速報値 平均値 3.00 (H29:速報値 平均値 2.21)
②客観指標結果	4点	(4点) 年間観光客数 H30年度 442万人	目標 R7年度時点で 450万人 実績 R2年度時点 295万人
		(4点) 観光消費額 H30年度 15,641百万円	目標 R7年度時点で 15,924百万円 実績 R2年度時点 9,740百万円
		(4点) 年間宿泊客数 H30年度 98.0万人	目標 R7年度時点で 99.8万人 実績 R2年度時点 66.1万人
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施	
④合計点 (総合評価)	15点		
⑤審議会 評点	3点 (3.4)	事業・取組が概ね達成されている	
④+⑤合計点	18点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

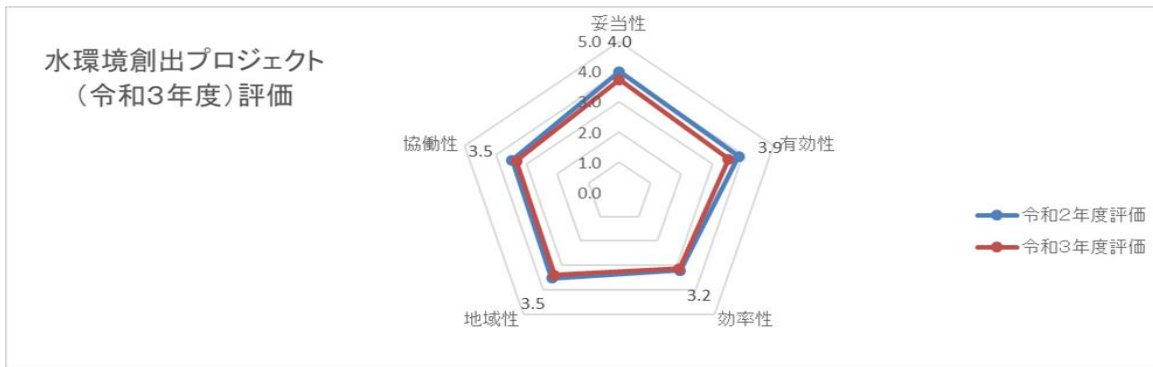
審議日	7月12日	プロジェクト名	滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト
コメント			
<p>コロナで指標の評価は難しい 分大との連携是非続けて下さい 情報発信とインフラ整備だけではなく、コンテンツの魅力向上にも力を入れては？</p>			
<p>3町毎に取組みが違い、その差は価値観含めて大きい、独自の特色を出しながら、ターゲットをどこにするか 観光としての財源確保まで行くのか 観光による潤いが、他町にもあると良い、関係人口を増やし、農ある暮らし、温泉のある暮らしの良さを知ってもらおう。</p>			
<p>費用対効果の面からも事業が上滑りしているのではないか</p>			
<p>湯布院・庄内・挾間でブロックを横断的に利用する観光パッケージ商品を開発して売り出してみてはどうか JTBなどの旅行者とのタイアップも視野に入れて</p>			
<p>コロナのため評価困難</p>			
<p>特に湯布院地域については、まちづくりの原点「住んでよし、訪れてよし」の原点に立ち帰る必要があり、市役所特に湯布院振興局に働く職員には、その歴史を振り返ってほしい</p>			
<p>言うまでもなく、現在の観光業は大きなダメージを負っている。今後の対策をしっかりと行ってほしい</p>			
<p>アフターコロナを見据えた取組みが必要と思われる。</p>			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

民官学の協働による 豊かな水環境創出プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.12	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「豊かな水環境創出事業」等		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画			
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
審議会評点合計	34点	43点	52点	54点	51点			
審議会評点 (平均点)	3点 (3.4)	3点 (2.8)	4点 (3.5)	4点 (3.6)	3点 (3.4)			



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	5点	R1年版「市民意識調査」 問16『豊かな水資源の確保』	R1:速報値 平均値 4.63 (H29:速報値 平均値 4.24)
①市民意識 (充足)	3点	R1年版「市民意識調査」 問16『豊かな水資源の確保』	R1:速報値 平均値 3.02 (H29:速報値 平均値 2.69)
②客観指標結果	3点 (3.25)	(5点) 水環境創出モデル事業数 H30年度 1事業	目標 R7年度時点で 4事業 実績 R2年度 4事業
		(3点) 環境に関する学習会・イベント等開催 数 H30年度 26回	目標 R7年度時点で 40回 実績 R2年度 22回
		(3点) 環境学習の指導者数 H30年度 3名	目標 R7年度時点で 6名 実績 R2年度 3名
		(2点) 上記2つの取り組みへ参加した市民の 数 H30年度 606人	目標 R7年度時点で 800人 実績 R2年度中 120人
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	16点		
⑤審議会 評点	3点 (3.4)	事業・取組が概ね達成されてい る	
④+⑤合計点	19点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

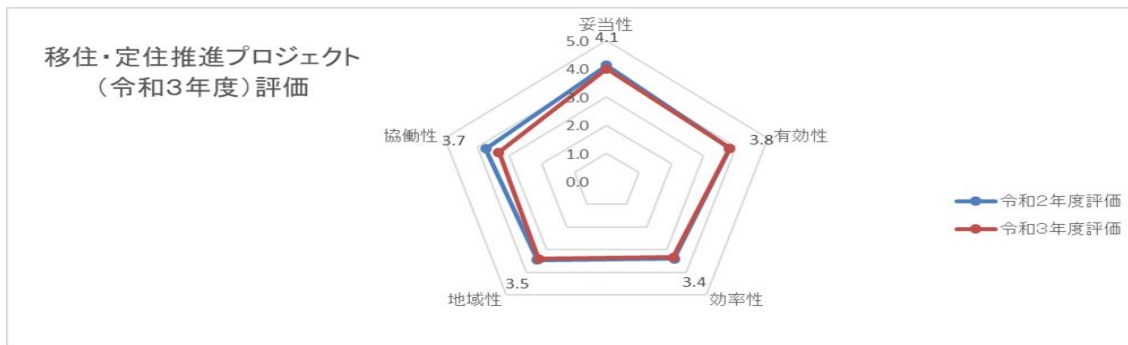
審議日	7月12日	プロジェクト名	民官学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト
コメント			
<p>社会教育・農政課・土地改良区等とのリンクを進めては？ 費用対効果を出しては？ 組織づくりの支援もしっかりやってほしい 参加した市民の数の大幅減少は？</p>			
<p>挾間地域の飲料水問題は、過去にも新水源確保期成会を立ち上げ行動をしてきたが、課題や対策が大きく自然消滅した状況となっている。 現状は湯布院や庄内に比して、極めて劣悪な状況である。 したがって、本プランとは切り離れた新水源確保について検討すべき事項である。</p>			
<p>今後の取組み次第 水環境の大切さを広めていくこと、子ども達にも水のありがたさ、恐さしてもらいたい。地域性を活かしつつ市全体の取組みを一目でわかるような啓発が出来たらと思う。それと同時に環境への関心をもってもらいたい。</p>			
<p>植林地の伐採が急激にすすんでいるが、水源涵養のためにも広葉樹への植栽を施策として検討する必要があるのではないか</p>			
<p>自立した組織づくりが急務。3ブロックに豊水会のような組織を形成し、お互い情報連携しながら運営できる仕組みを考える必要があります。人材育成、資金、啓発活動をバランスよく展開して欲しい 少し割り当てる予算が少ないように感じます。</p>			
コロナのため評価困難 水道管理事業の情報発信不足			
<p>由布市湯布院地域における水環境創出事業「豊水会」については、人材育成ゆふいん財団が県からの支援を受け、外来種の除去を進めるにあたって設立された団体であり、実績を上げている。組織の継続にあたっては行政の支援が不可欠であるとともに、実績をビジュアル化し、将来的に分析し、広報してることが重要である。堤防の維持管理や合併処理浄化槽の普及・管理など県の関係部局との調整のなかでデータを蓄積し、広く市民に伝えていく役割が市の役割と考える。</p>			
<p>地域住民の「Q・O・L」向上と、自然環境保全の為に、よりしっかりとした目標設定が必要ではないか？</p>			
<p>市民への当プロジェクト活動内容の広報が必要と思われる。市民参加の裾野が広がるのではないかと感じる。民間組織の自立に向けた支援・取りくみが必要と思われる。</p>			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

由布ならではの 移住・定住プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.12	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「由布市に住みたい事業」等		事務局

計画	前期計画				後期計画		
事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	35点	47点	57点	56点	54点		
審議会評点 (平均点)	4点 (3.9点)	3点 (3.1)	4点 (3.8)	4点 (3.7)	4点 (3.6)		



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R1年版「市民意識調査」 問19『UJターン等の推進活動』	R1:速報値 平均値 4.08 (H29:速報値 平均値 3.58)
①市民意識 (充足)	3点	R1年版「市民意識調査」 問19『UJターン等の推進活動』	R1:速報値 平均値 2.56 (H29:速報値 平均値 2.15)
②客観指標結果	4点 (3.5)	(1点) 人口動態における社会動態の推移数 H30年度 +46人	目標 R7年度時点で 増減0人 実績 R2年度 -113人
		(4点) 空き家バンクへの新規登録件数 H30年度 29件	目標 R7年度は 30件 実績 R2年度 23件
		(4点) 空き家バンク利用率 H30年度 66%	目標 R7年度時点で 85% 実績 R2年度末 63%
		(5点) 移住・定住施策を活用した移住定住者数 H30年度 38人	目標 R7年度時点で 45人 実績 R2年度末 59人
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施	
④合計点 (総合評価)	15点		
⑤審議会 評点	4点 (3.6)	事業・取組がかなり達成されて いる	
④+⑤合計点	19点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

審議日	7月12日	プロジェクト名	由布ならではの移住・定住プロジェクト
-----	-------	---------	--------------------

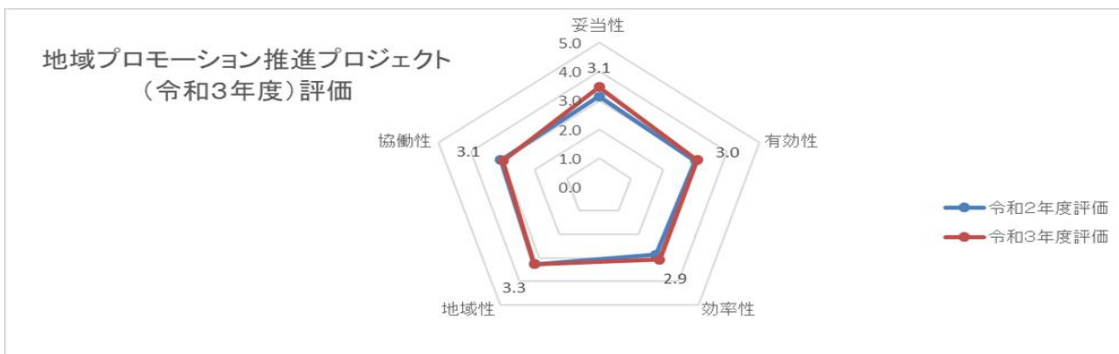
コメント
<p>挾間がマイナスで意外だった。なのに流出が増加？どこへ？ なぜコロナで減少？ 都会からの流入が増えるのが一般的？ まち協や自治会にインセンティブがあっても良いのでは？ 古民家で農泊をやってみたい移住者がいるのでは？</p>
<p>地域での高齢化も歯止めがかからない現状のなかで、生産年齢人口を増加するための仕事場づくりは極めてハードルが高い課題である。 就農者の拡大や支援事業だけでは生産年齢者の増加対策には繋がらないと考える。 県内外や国を含めた企業誘致、また地場産業の強化や農産物の加工工場の設立等を働きかける取組みが必要である。</p>
<p>定住・移住者が落ち着いて生活できているのか、何が不足しているのか、課題は何なのか？ 借り手・貸し手の情報がうまく伝わっていない。 少子化をここに求めるか、全体の大幅な人口増を求めるか。移住・定住の意義 宣伝する以上 受入側の条件をきちっと整えるべき。核家族を減らす努力</p>
<p>移住後の地元との癒合のためのフォローが大事だと思う</p>
<p>人口増加の試みとして今後も愚直にこの取組みを継続して頂きたい 由布市のプロモーション活動に力を入れて、由布市の魅力を県外に特に大都市圏にアピールを。</p>
<p>コロナのため評価困難 情報発信のために由布市と都市部をつなぐ人が必要では</p>
<p>移住・定住を進めるためには、受け入れる側の地域のあり様が重要である。挾間地域であれば大分市との関係性の中で、人口が増えている県内でも数少ない地域であり、3世代居住や子育て支援などの施策を重点的に進めることが重要でありPRが必要。その他の地域でも受入側の意識を高めることが必要でそのための働きかけを強める必要がある。</p>
<p>定住率の上昇が期待できる取組みが必要と思われる。</p>

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

地域プロモーション推進プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.19	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	戦略的プロモーション基盤整備事業		説明担当課 総務課

計画	前期計画				後期計画		
事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	※33点	48点	48点	46点	48点		
審議会評点 (平均点)	3点 (3.3)	3点 (3.2)	3点 (3.2)	3点 (3.1)	3点 (3.2)		



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R1年版「市民意識調査」 問18『地域の魅力を発信』	R1:速報値 平均値 4.12 (H29:速報値 平均値 3.69)
①市民意識 (充足)	3点	R1年版「市民意識調査」 問18『地域の魅力を発信』	R1:速報値 平均値2.97 (H29:速報値 平均値 2.50)
②客観指標結果	1点	-	地域の魅力を再発見・共有するイベントの開催 目標 1回/年
		(1点)	国内向けの戦略的プロモーションの試行回数 目標 延1回/年 実績 R2年度 0回
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	13点		
⑤審議会 評点	3点 (3.2)	事業・取組が概ね達成されている	
④+⑤合計点	16点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

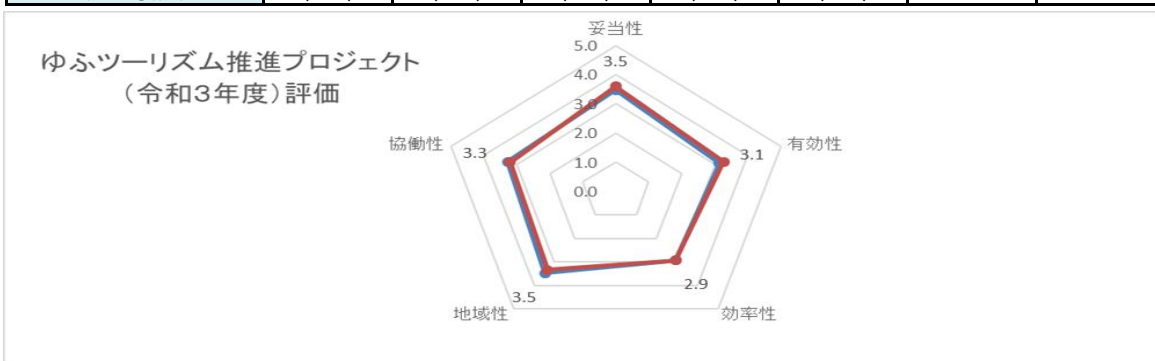
審議日	7月19日	プロジェクト名	地域プロモーション推進プロジェクト
コメント			
<p>コロナで評価困難 神楽の後継者育成の手法は？魅力があればSNSで自然に広まるはずでは？魅力UPの方が大事な気が 費用対効果が気になる。</p>			
<p>このプロモーションで由布市の魅力を発信できているのか？見直しが必要 HP・インターネット等の情報発信の仕方 メディアの力 運用する人材の発掘 受けとめる側の学習 その気にさせるセンス 映像等 人脈を使って検討する余地があるのではないか？</p>			
<p>地域資源の発掘と磨きのための施策を充実すべきでは</p>			
<p>戦略的プロモーションの実施がなされているとは思えない。Tool(Twitter・Facebook)などを利用してはいるだけ、そこにアイデアや由布市独自のコンセプトを注入してこそ初めて戦略的と言える。 プロモーションのアイテムを多く抽出した方が良い 由布市の売りは神楽だけではない「健康立市」「子どもの医療費ゼロ」「由布川溪谷パッキングツアー」「由布院 湯平 挟間温泉」等など、各ブロック別に情報を整理して映像化するなど知恵と工夫が必要 ふるさと納税の強化として、各ブロックの特産品をセットにして、出来れば四季毎にそのセットを巡回させて返礼品とするなど</p>			
<p>コロナのため評価困難 情報発信のために由布市と都市部をつなぐ人が必要では</p>			
<p>むずかしいですね</p>			
<p>本年はコロナウイルスにより、多くのプロモーションが行えていないと思う。次年度に期待したい。</p>			
<p>地域発信のツールを活用して「ふるさと納税」に活かしてほしい 由布市の魅力発信は必要だと思います。具体的な戦略を期待します。</p>			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

ゆふツーリズム推進プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	R3.7.12	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「クアオルト推進事業」等		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画		
事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	19点	42点	47点	49点	49点		
審議会評点 (平均点)	2点 (1.9)	3点 (2.8)	3点 (3.1)	3点 (3.3)	3点 (3.3)		



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R1年版「市民意識調査」 問17『地域資源を活かした交流』	R1:速報値 平均値 3.72 (H29:速報値 平均値 3.27)
①市民意識 (充足)	3点	R1年版「市民意識調査」 問17『地域資源を活かした交流』	R1:速報値 平均値 3.00 (H29:速報値 平均値 2.21)
②客観指標結果	2点 (2.3)	(1点) グリーンツーリズム農泊数 H30年度 1,200泊/年	目標 R7年度時点で 6,000泊/年 実績 R2年度 0泊
		(3点) TIC(まちづくり観光局)利用者数 H30年度 108,243人	目標 R7年度時点で 150,000人 実績 R2年度 52,327人
		(3点) クアオルトプログラム数 H30年度 1事業	目標 R7年度時点で 2事業 実績 R2年度 1事業
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	14点		
⑤審議会 評点	3点 (3.3)	事業・取組が概ね達成されてい る	
④+⑤合計点	17点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

審議日	7月12日	プロジェクト名	ゆふツーリズム推進プロジェクト
コメント			
<p>農泊が心配 ゆふイズムの多角化は良いと思いますが、地域の方の主体性をうまく引き出してください。</p>			
<p>クアオルト事業も検討・見直しが必要では？ 長期滞在型保養を目的とするのであれば、どう農村交流と結びつけるのか？湯平温泉・由布院温泉・塚原と農泊その集客を、梨・ブルーベリー・苺・椎茸など特産品の生産過程にどう組み込むのか「ゆふイズム」の役割はここにあるのでは？</p>			
<p>人を呼び込むためには「何でも有り」になっているように思えるので、由布市には昔からある「里山」をコンセプトに農業も観光も施策を展開すれば、市内に一体感が出来るのではないか</p>			
<p>クアオルト構想については原点回帰して、目指す方向性を明らかにした方が良い。特に「健康立市事業」とは、今後タイアップして事業を進めていくのか。それぞれ独自の路線で活動を推進していくのかをはっきりさせた方がよいと思います。同じような事業があると市民は混乱する。</p>			
<p>コロナのため評価困難</p>			
<p>アフターコロナに向けた新しい活動を</p>			
<p>アフターコロナを見据えた新たな事業の柱の設計が望まれる。</p>			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。